



第15号 (2013/8/13)

広島県福山市木之庄町4-3-14

Tel&fax: 084-917-5937

e-mail: info@crcc-fukuyama.org



Community Renaissance Research Center

既存建築物耐震診断 改修等促進 全国ネットワーク委員会」への入会が認められる

昨年10月よりコミュニティルネッサンス内に「福山建築物耐震診断等評価委員会」を設けて診断業務を行って来ました。あわせて「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会」（以下「全国ネットワーク委員会」と略す）への入会の申込みをしていました。

去る7月9日の「全国ネットワーク委員会幹事会」および7月24日の今年度第1回「全国ネットワーク委員会」全体委員会で、本NPOを含む3団体の入会が認められました。この全体委員会には加納が出席しましたが、全国ネットワーク委員会は、今回加入の認められた株式会社愛媛建築住民センター、工務店の全国ネットワークであるJBNをはじめ、各都道府県、各県の建築事務所協会などそうそうたる団体がズラリと並んでおり、ズッシリと社会的責任を感じました。

今回の会議で耐震判定委員会登録要綱が改定されました。改定事項は、①登録された耐震判定委員会の情報を広く国民に公開すること、②5年毎に登録更新を申請すること、③発行し

た判定書（写し）の保存期間は15年とする、などでした。

耐震改修促進法の改正により、一定の用途、規模などの既存建築物には耐震診断が義務づけられました。それにより、「全国ネットワーク委員会」に登録された耐震判定委員会の第三者性をより高めるために、これらの改定がなされました。

今年10月末までに新たな情報公開を行うことが求められており、現在本NPOでも平田さんにお願ひしてホームページの作成を行っているところです。

なお、これまでのホームページアドレスやe-mailアドレスも使えますが、それぞれ次のように変わります。

HP: <http://crcc-fukuyama.org/>
e-mail: info@crcc-fukuyama.org

夢のみずうみ村」視察研修ツアー



7月18日、19日と山口市内にある「夢のみずうみ村」の視察研修ツアーを行いました。参加者は会員5名を含めた10名。安川代表を含め名古屋から6名の参加でした。

1日目は12時頃新山口駅に集合。三浦さんが探して下さっていた美味しい手打ちそばをいただきながら自己紹介。その後長門市の「金子みすず記念館」へ。夕食時には途中から合流した中島さんから「地域の絆」での実例を使っ

て、その人が持つ良いところに注目して支援する「ストレンジスモデル」について学習しました。2日目は「夢のみずうみ村」山ロデイサービスセンターと高齢者の就労支援をめざす「夢むすび」を視察。

タクシーで山ロデイサービスセンターに向かうとだんだん山の中に入り、色とりどりのまるでバラックのような建物の前に停まりました。駐車場には『みんなちがってみんないい』という金子みすずの詩の一節と大きな「夢」という字が書かれた送迎車がずらり。案内までの時間、到着した利用者さんがその日のスケジュール作成風景を見学。



こんな送迎車がズラリ

10時から80才過ぎと思われるおふたりの水先案内人（ともに利用者）さんから裏に「夢の湖村、村民憲章」を印刷した名刺をいただき、約1時間あまり案内をしていただきました。

夢の湖村 村民憲章
 生きていることはすばらしい

一人一人みんながうからいい

人の心の温かさにつつまれる中でこそ、

人は真に生きることができる

ちがいを尊重し見守ってくれる、

そんな仲間がいることがすばらしい

みんなちがってみんないい

「ゆめ」はそこに生まれる

一つ一つの「ゆめ」を、

みんなが育て、わかちあおう

生きてることがすばらしい

これまで訪問したことのある整然とした施設とは全く異なり、地形を利用した勾配がありしかも手すりのない長い廊下。更にタンス街道と名付けられた廊下の片側にはさまざまなタンスがズラリ。廊下では車イスや杖をついた利用者さんとさかんに行き交います。途中のソファに座った男性利用者さんからは「どこから来た？」と声をかけられます。

機械を使った運動をしている人もありますが、基本的には歩く、しゃがむ、背伸びをする、蓋をあける、など日常生活で行う様々な動作が一日のデイサービスのプログラムに組み込ま

れており、利用者さんはリハビリをした、と思わないうちに生活機能を向上させているように思いました。

こうしたワイワイ、ガヤガヤ状態の中での視察を終えて「夢むすび」で昼食をいただいた。まだ採算はとれていない、などと少しその施設の状況も伺いました。

その後中原中也記念館の見学を終えて、各自帰途につきました。

施設の見学料が1人2000円と聞いていささか高いな、と思いました。しかし、1000円分が水先案内人さんに施設案内の対価として村内通貨で支払われ、750円分は「夢むすび」昼食券になっているのを見ると、うまく設定された値段だなと思いました。

なお参加者の感想文、今回はお一人分だけ掲載させてもらいます。後は別の機会に。



水先案内人さんと参加者でハイポーズ

感想文

名古屋から参加の辻本さん

タクシーは期せずして施設を一回りして玄関に着いた。外観から見学したところ、青いトタンで覆われたプレハブはかなり曲がりくねっているように見えた。少しずつ増築していったのか、地形に沿って建てられたのか。高低差もあるように見受けられた。

待たされている間に、通ってきている方々の様子を見たり、ボードに張られた個人個人のその日のメニュー板を見たりすることができた。どうやらその日の自分の体調や、気持ちに合わせてあれこれ選択できるようになっている。面白いのは「ぼんやり」とか「気分で」というような札も選べることだ。とにかくメニューが多いことに驚く。



利用者さんが自分で選んだメニュー

さて、約束の時間になって「水先案内人」の70代半ばと思しき男性が、我々の案内人として丁寧に施設や、内容を説明して下さる。

お身体は少し不自由そうであるが、お話しきちんとされ、質問にも的確に応えて下さった。見せていく順番も決まっているようで、その場その場で適切な解説をつけながら何をするところなのか、講師や、療法士はどんな方々なのか、地域通貨「ユーメ」の払い方、もらい方などがよく理解できた。

一時間あまりの見学なので、十分なことはわからないが、利用者の顔つきはそれぞれに幸せそうに見えたし、スタッフの動きもきびきびしていることと、むしろあまりスタッフの姿が見えないことにも驚いた。垣間見た利用者へ言葉かけも丁寧な物言いだった。個が尊重されていることが、そんなところからもうかがい知ることができた。

問題のバリアフリーについては、廊下も狭いし、坂がやたらと多いし、整然とした物品の並べ方はなく、どこからの頂きものらしく、タンス・ロッカー等不揃いのものが廊下に至りと並んでいた。高さも長さも材質も全くちがいが、さながら金子みすずの「みんなちがって、みんないい」のままの様相であった。それぞれに名前が記載されていたので、家から持ってきたものをそこへ入れておくようである。それなりの法則は存在していると思う。

調理室や、陶芸教室の設備ひとつとっても、それなりに充実した内容になっていて、かなり本格的な作品を作ることができそうである。子どもだ



坂になった廊下。途中には漢字や計算のクイズもあり、ソファではちょっと休憩

ましのような作品ではなく、各人の知的好奇心や、それまでに培った興味・嗜好を満足にさせてくれるような設備であることは、本当にうらやましく思う。

写真工房でも、先生がきちんと指導されているようで、出来上がった作品は玄人はだしに見えた。パソコンコーナーでは90歳以上の女性が、本の文章を転記されている姿も印象的だった。

最後に見たプールもさほど大きくはないが温水で、水中ウォーキングするにはもってこいの広さと思えた。そこにはお風呂もあると説明は受けたが見学はできなかった。

全体の印象としては、確かに障害を持ったお年寄りもたくさんいらしたが、介護度の極端に高い方はお見受けしなかった。最低限自力での移動（車いすでも）が可能で、何かに参加できる力を持った方々の方だった。それともここに通ってくるうちに症状が改善されたのかも知れない。

認知症の人だけのフロアは見たが、そこまでいかない寝たきりに近い移動困難な方々はいらっしゃったのかどうか。書面上では要介護5まで受け入れ可能とは書いてあるが、現実はどうなのか、聞きそびれてしまった。

男性利用者の多いことは、他のデイセンターの女性の多いことと比して、もっとも特徴的なことだった。

それから、説明書に食事代が600円/回とあったが、皆さんの食べようとしてられている昼食を見た範囲では、ちよっとお高いかな！と素朴に感じた。

・施設内通貨に関して。

このアイデアは素晴らしいと思う。人間として尊重されている証のひとつになっている。

朝のバイタルをして○○ユーメ、健康機器を3〜5以上利用して○○ユーメ、これはもらう方。反対にコーヒーが○○ユーメ、ほぐしの施術で○○ユーメ、これは払う方。どれも自主的に箱に入れたり、勝手に箱からもらった。

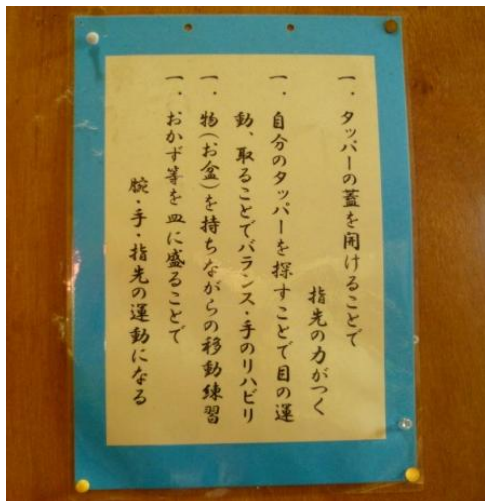


村内通貨ユーメ

掛けカジノもできてスリル満点である。たくさん貯まれば、特設銀行に預けて利子をかせぐ。現実の通貨でなくとも、かなりの日常がそこに用意されている。うれしそうに首にかけた透明の袋のため込んでおられる方をたくさん見た。

このアイデアの素晴らしいことは、経営側は何も損はしないということ。最初の導入には何がしかの設備投資は必要でも、あとの管理は利用者任せられている。仮に払わない人がいても、もらいそこなった人がいても、基本的な経営には関係ない。

スタッフの労力は省けるところでは省きながら、利用者の尊厳を守っている姿勢は学ぶべきところが多い。与えられるだけの高齢者施設が多い中で、選択制、参加型のこの「夢のみずうみ村」の理念がもつと広がっていくことを期待したい。



花の水やり

お盆休み等で事務所のまわりにある花に水やりが出来ないことがあることに気がつきました。そこで「地域の絆」の利用者さんに水やりをお願いすることにしました。支払うお金はわずかですが、職員さんと一緒にジョロを持って水やりに来ていただいています。職員の子どもさんも小さなジョロを持って一緒に水やりの日も。Iさんに水をもらって花たちもうれしそうです。



一般財団法人「義倉」より助成金



2013年度、一般財団法人「義倉」の助成金を10万円いただけることになり、7月12日の贈呈式に出席しました。今回助成を受けたのは福祉部門42団体、教育部門58団体、殖産部門6団体、およびゼナ基金が贈呈された福山ハーネスの会の計107団体でした。

コミュニティ・ネット・リサーチ研究所は2012年3月に行ったシンポジウムの内容をブックレット化することで、高齢者が地域で自立した生活を送るために必要な考え方を広く市民に広めたい、と福祉部門に申請し、助成金を頂くことが出来ました。現在ブックレット作成のための準備を行っているところです。

学生さんたちとバーベキュー

8月8日夕方から、恒例の夏休み前バーベキューを市立大学「野菜作ろうクラブ」の学生さん達と行いました。ルネッサンスからは廣中、加納が参加しました。

さすが3年生。野菜の切り方、準備、片付けなども手際よく行えるようになっていました。今年は1年生も男性1名を含めて7人入部していました。昨年は1年生の入部が1名だけでしたから、続くかなーと危惧していましたが、これで当分継続出来そうです。



9月の行事予定

9月7日(土)

都市農業を考える連続講座 第1回

フルーツティーを飲みながら都市農業を考える

・場所：ルネッサンス研究所集会室

・時間：13時30分～15時30分

・講師：フルーツティ：三浦貞江さん

話題提供：胃甲安俊さん(食料品店経営)

・内容：「私が食にこだわるわけは…」

胃甲さんは現在販売されている食料品に問題を感じ、この地域で地道に農作物の栽培や加工をしている人を大切にしたいと思いつながらお店を経営されています。その想いを聞きながら、都市農業の持つ意味を考えてみたいと思います。

・参加費：500円



9月14日(土)

気軽に集って楽しみましょう

第1回 生活習慣病予防を考えたい食生活Part1 ～体に必要だといわれている野菜の量は？～

の量は？～

・場所：ルネッサンス研究所集会室

・時間：14時00分～16時00分

・講師：寶諸純子さん(管理栄養士)

・内容：病院給食の仕事の中で、患者さんの血圧、血糖値などが改善されているそうです。

今回はそうしたお話を聞きながら、たとえば1日に必要だと言われている野菜の量を生の場合、加熱した場合、それぞれどれくらいかを目で確かめます。

・参加費：500円

*出来れば申込みは前日までに、「文・もしくはメールを頂ければありがたいです。



編集後記



毎日暑い日が続きますが、体調など崩されていないでしょうか？

最近私は一日に1リットル以上の水を飲むように心がけています。熱中症対策もありますが、元々代謝があまりよくないので健康と美容の為に始めました。飲み始めてから代謝がよくなり、体の毒素が出ていくような気がします。もうしばらく続けていきたいと思えます。

